

ドイツ
デンマーク
スウェーデン

欧州ルポ

—都市交通—

地球人になろう

2004環境特集④



市民の3分の1が自転車で通勤するという「自転車シティ」は、立派な自転車道が整い、大勢が行き交うデンマーク・コペンハーゲン

■公共交通へ持ち込み可

欧州3カ国を訪れてまず驚いたのは、自転車に乗っている人が多いこと。駐輪場が多く、電車やバスへの自転車の持ち込みも可能。これなら、遠隔地でも、自分の自転車で気軽に移動できる。

中でもデンマークのコペンハーゲンは、市民の3分の1が自転車で通勤するという「自転車シティ」。よく見ると、ほとんどの道路で、歩道と自動車道の間で独立した幅の広い自転車専用道路が設けられ、かなり高速で走っている人もいます。

日本にいる感覚で、車道に止まったバスに視察団がぞろぞろ乗り込もうとしていたら、自転車の通行を妨げてしまったことが度々あった。同国では車だけでなく、自転車にも気を付けて歩く必要がある。

■無料レンタルが人気

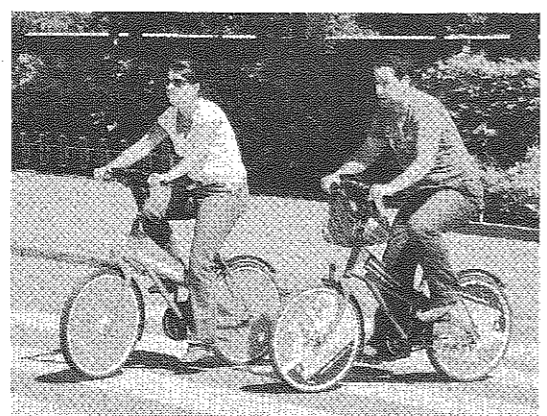
市中心部では、赤や黄、青などカラフルでユニークなデザインの自転車によく出会う。これは「シティバイク」と呼ばれ、誰でも無料で利用できるレンタル自転車。

無料で利用できる人気のシティバイク＝デンマーク・コペンハーゲン

車輪のフレーム部分には企業広告が付いている。街を自由気ままに移動でき、観光客にも人気だ。

中心部に125の駐輪場があり、シティバイクのハンドル中央部にある鍵に20クローネ硬貨(約400円)を入れると、鎖が外れる。自由に乗り回して、移動先の駐輪場で鍵をかけると、硬貨が返金される仕組み。飲料容器と同じようにデポジット制となっている。

乗ってみると、ギアが低く、こぎやすかった。これは最高速度や走れる範囲を限る



自転車通勤が3割強

ため、シティバイクで街から遠くへ行くことを防ぐ狙いがあるという。

■路面電車を中心に整備

ドイツ南西部のカールスルーエ(人口約28万人)は、排気ガスを出さないトラム(路面電車)を中心とした都市交通システムが整備されている。

トラムとドイツ鉄道は線路を共有して相互乗り入れしており、利用者は乗り換えの不便がない。メイン通りのトランジットモール(公共交通機関だけ通行できる歩行者専用空間)は大勢の人々で活気にあふれていた。

郊外にはパーク・アンド・ライドの駐車場が数多く配置され、市街地への不要な車両の流入を防ぎ、都市環境を守っている。



中央をトラムが走るトランジットモール＝ドイツ・カールスルーエ



歩道の一部を自転車通行帯に整備＝前橋市内

自転車

どうなってる？

ぐんま

“王国復活”へ着々

通行帯整備、ガイド発行

だっただけだ。その歴史をひもとくと、明治初期、日本に自転車が輸入され始めた。本県でも1879(明治12)年に、往來の多い場所や夜間の自転車使用を禁止する取締令が出され、かなり普及していたようだ。

世紀も前から、現在のグリーンロード付近で盛大に開かれていた。52年には県内1周の自転車駅伝レースも開催されたほどで、まさに「自転車王国」だった。それが高度経済成長の中で、便利な自動車に主役の座をバトンタッチ。「近

県はすでに推進策として、2000年に市街地を含むサイクリングロードネットワーク計画を策定。国道や県道などで歩道の一部を茶色に着色して自転車通行帯にするなどの整備を始

めた。計画延長1500キロに対し、昨年9月末現在の進捗率は45%。06年度の計画達成を目指す。このほか、自転車とバスの乗り継ぎ拠点を設けたリ、ソフト面でもサイクリング会の開催、通学路ヒヤリマップの作成、ガイドブック発行など積極的に取り組んでいる。

県環境アドバイザー
欧州視察に参加して

佐塚 操さん(72)

＝富士見村石井



3カ国の美しい街並みに感動。特にスウェーデンのベクショーの明るい雰囲気気に入りました。私の家の近くでは不法投棄が多く、子犬や子猫まで捨てていく人もいます。地域をきれいにするため、散歩の時にジュースの缶などを拾おうと思います。